



とうきょうとしゃかいふくしじぎょうだん

東京都社会福祉事業団

ひがしむらやまふくし えん
東村山福祉園だより

道

平成28年 1月

発行:

(社福) 東京都社会福祉事業団

東京都東村山福祉園



メール mail@higashimurayama-f.org ホームページ <http://higashimurayama-f.org>

新年のご挨拶

えんちょう ながた はじめ
園長 永田 元

あけましておめでとうございます。利用者・保護者の皆さんにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、東京都社会福祉事業団の中期経営計画が策定され、10年後の一般社会福祉法人への道筋が示され、日野療護園の自主運営がスタートしました。当東村山福祉園も児童施設としての東京都の指定管理と成人施設としての平成30年度からの「希望の郷東村山」の自主運営が決定しました。まさしく一般社会福祉法人への第一歩を踏み出しました。

今年はこの計画に基づき、新しい試練の年に突入します。1月からは東側の旧職員宿舎の解体工事が本格化し、3月いっぱいまで続きます。1月17日には、29年度に開設される「ひだまりの里 きよせ」に移転する利用者さんと「希望の郷 東村山」に移転する利用者さんが決まります。そして、4月からは「ひだまりの里 きよせ」を運営することになっている東京都知的障害者育成会の職員の方々が、1年間にわたって当園で利用者さんの引き継ぎを始めます。また、秋頃からは、北側の旧職員宿舎の解体工事が始まり、東側には「希望の郷 東村山」の建設が始まる予定です。29年度には、「ひだまりの里 きよせ」への移転、北側敷地への児童施設の仮設建物の建設、東側敷地の「希望の郷 東村山」の建設が予定されています。30年度には、北側敷地に完成する児童施設「東村山福祉園」の仮設建物への移転、東側敷地の「希望の郷 東村山」への移転と新しい事業に次から次へと取り組んでいかなければなりません。

今まで誰も経験したことのない事業が続きますので、多少の不安はありますが、東村山福祉園の経営理念に基づき「安心」、「信頼」、「満足」のサービス提供に努め、地域の皆様やこれまでご支援いただいた皆様のご協力をいただきながら、より良い施設づくりに職員一丸となって邁進していく覚悟です。今年もどうぞよろしくお祈りします。【完成予想図→】



へいせい ねん ひがしむらやま ふく し えん だい
平成27年 東村山福祉園 10大ニュース！

- 1 「希望の郷 東村山」の開設に向けて、職員宿舎等の解体工事が始まる。



- 2 「グループホームきらり」の自主運営がスタート！

- 3 第40回東村山福祉園祭を9月に開催！ブルベークんをはじめキャラクター3体が登場し、東村山市の渡部尚市長から挨拶を頂く。

- 4 くりえいと活動がスタート！デイセンターでは棟職員がコーディネーターとして関わるようになるなど日中活動がさらに充実！

- 5 11月の虐待防止月間に各係創作のポスターコンクールを実施！

- 6 当園のエキスパート職員が、東京都強度行動障害支援者養成研修の講師として活躍！

- 7 出張調理の充実で、バラエティに富んだ食を楽しむ機会が増える。



- 8 ボランティアまつりや福祉のつどいなど、多くの地域イベントに参加する。

- 9 重度・最重度障害者の地域生活移行の実践が福祉保健局長賞(政策課題部門)を受賞！

- 10 健康推進科において、全利用者を対象とした骨密度測定を実施する。

- 事業団職員提案で「強度行動障害利用者支援手順書」の活用が特別賞(奨励賞)を受賞！

- 小平特別支援学校との定期連絡会がスタート。

- からんどりえ展、今年も大盛況！

- バスハイクで初温泉！



昨年いろいろな出来事がありました。今年も利用者の皆様とスタッフのしあわせ実現に向けて引き続き尽力してまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。



12月11日(金)東村山福祉園で毎年恒例となっている「係研究発表会」が開催されました。

この係研究発表会は、各課(科)・係における利用者の方へのご支援に関するプロセスや成果をまとめて発表をする年に一度の機会であり、各課(科)・係の創意工夫に触れる機会でもあります。

年々支援に関する考察やプレゼンテーション・スキルが向上してきており、発表会も年々も盛り上がりを見せています。

今年度はサービス第四係の「行動障害の方の地域移行について」が最優秀賞に選ばれ、2月の東京都社会福祉事業団の事例研究発表会で発表をすることとなりました。

これからも利用者の皆さんの支援向上を目指して日々チャレンジをしていきたいと思えます。



さいゆうしゅうしょう こうどうしょうがい かた ちいきいこう がいよう
最優秀賞「行動障害の方の地域移行について」(概要)

だいよんがかり
サービス第四係

発表のテーマは「行動障害の方の地域移行について」です。

障害のある人もない人も、社会の一員として互いに尊重し、支え合いながら地域の中で共に生活するという理念の下、障害者が希望する地域で安心して暮らせる社会の実現を目指して、入所施設から地域生活への移行を促進しています。

今回4係のAさんが地域移行に向けて体験を重ねていることから、重度の知的障害があり、なおかつ行動障害を有する利用者の方が地域移行するためにはどのような支援や環境調整が必要なのか、ということをもとめ、発表しました。

Aさんは平成24年5月に児童棟から成人棟へ移棟してきました。移棟当初は様々な行動が課題となっていました。大きく分けると5つ、衣類の拘り、食事の拘り、移動の拘り、睡眠の乱れ、他傷行為です。拘りについては、仮説を立てて検証し、統一した支援を行う事で減少することが出来ました。睡眠の乱れについては日常の流れを固定したことで、生活リズムを安定させることができました。他傷行為については、成人棟に移棟したことで御本人の刺激となっていた児童がいなくなったため、大幅に減少しました。課題となっていた行動が減少し、余暇が拡大できたことが、Aさんが地域移行を考えるきっかけとなりました。

余暇支援では、本棚を活用しそこに御本人の好きな本や雑誌を並べて自由に選べるようにしました。始めは本を交換して欲しいと要求し、要求が通らないと他傷行為に至ることもありました。定期的な新しい本に交換することによって要求は減少しました。散歩についてはきゆうはし だすわ こ しんちょう しえん はじ えんがいしゅうさんぼ 急な走り出しや、座り込みがあったため、慎重に支援して行きました。初めは園外周を散歩して食堂でコーラを飲むことを続け、今では買い物に行き好きなものを自分で選んで買えるようになりました。

(次ページへ)

(前ページより)

作業については、地域移行後も継続的に地域の生活介護事業所に通うことになるため、スキルの拡大が必要でした。始めはデイセンターに入れませんでした。裏口から入れるようになり、今では表玄関から入れるようになりました。作業もスペースの構造化、時間の短縮や作業量の調節により、集中して行えるようになりました。園芸活動については長靴の拒否があり、棟庭に出る事が出来ませんでした。短い長靴なら活動出来るようになりました。

Aさんの場合は、児童棟から成人棟への移棟という大きな環境の変化があり、様々な行動が表出したことをきっかけに、うまく環境を整えて支援することで、落ち着いて生活を送ることが出来ました。Aさんのような行動障害がある方でも環境を整え、統一した支援を行うことで、地域で生活できる可能性は決して少なくないと思います。また、それぞれの利用者が、何を理解できるのか、ということ職員が理解し、支援を実践していくことも重要であると感じました。

これからも、利用者一人一人が安心して、自尊心に満ちた生活が出来る様に支援していき、一人でも多く地域での生活を考えることが出来るような支援をしていきたいと思ひます。

献立紹介「今年のおせち料理」



事業推進係



日本の伝統のおせち料理ですが、園には幼児から40代の方までいらっしゃるためか、お好みも分かれてしまい、毎年栄養士を悩ませます。そこで今年、リクエストをいただいたものを、お正月の期間中に提供することにしました。

1月1日の朝のお食事は、リクエストいただいたお赤飯を中心に、お魚は金目鯛(赤くてめでたい)、おせちの箱の中身はかまぼこ、伊達巻、きんとん、うかんなどを組み合わせました。

今年も皆さんが健康な一年が過ごせますように心をこめて作りました。



お知らせ

●当園のホームページでは、地域公開講座等のご案内やスタッフブログ事例研究発表等を随時更新してまいります。また、1月から当園の給食の献立表も掲載しています。ご覧ください。



予定

1月21日(木) 第3回地域公開講座

『生命と向き合うホスピスケア人生最期の時までその人らしく』

2月14日(日) 児童施設仮設建物整備に係る説明会

2月21日(日) 家族会・家族相談窓口

3月13日(日) 家族会・家族相談窓口

